

都市再生整備計画(第6回変更)

な か せ ん ど う お お た じ ゆ く
中山道太田宿地区

岐阜県 み の か も 美濃加茂市

平成21年11月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	岐阜県	市町村名	美濃加茂市	地区名	中山道太田宿地区	面積	317 ha
計画期間	平成17年度～平成21年度	交付期間	平成17年度～平成21年度				

目標		中山道太田宿を中心としたエリアの道路と施設の一体整備を行うことにより歴史と文化にふれあうまちづくりを推進し、地域住民の交流と観光及び商店街の活性化をめざす。
目標1	観光と市民交流の拠点整備によりまちを再生し活性化する。	
目標2	まちなみの修景、散策道の整備により観光客と地域住民の歩行者の増加を促し、活力あるまちづくりを推進する。	
目標3	コミュニティ及びボランティア施設の整備により市民参加を促進する。	
目標設定の根拠		まちづくりの経緯及び現況 ・美濃加茂市は、江戸時代には中山道51番目の宿場町「太田宿」として賑わい、近年は鉄道(3線)や国道(4線)を有し交通の要衝として栄えたまちである。また、美濃太田駅前における近代化事業やソニー、富士通、ヤマザキマザック、日立製作所などの大型企業の進出によって着実に発展を続けている。人口は、平成16年4月末現在、52,203人であり、これまで順調に増加しており、国勢調査による平成7年から12年までの人口増加率は8.7%と県内14市中一番目に高い増加率となっている。 ・当地区は、市内の約1/3の事業所が集積し、特に金融・保険業者については約7割が集中しており、美濃加茂市の中心市街地として発展を続けてきた。しかし、近年では駐車場の不足と大型店の進出等に伴い若年層を中心に既存の商店街離れが見られ、当地区の空洞化、住民の高齢化が進んでいる。 ・当地区内にある「日本ライン下り」は、昭和25年創業以来50年以上にわたり多くの観光客で賑わっていたが、平成15年3月に長引く不況と観光形態の変化に伴う乗船客の減少のために廃業に至った。しかし、この地域の重要な観光資源の活用のために、現在は新会社に営業が移され復活の努力がなされている。 ・中心市街地の商店街は、これまで大売り出し、まつり・イベント、街路灯、植栽等の整備等を行ってきたが、昭和57年に「中山道若衆会」が結成され、今までにない大規模な祭りである「おん祭りのかも」を育ててきた。その他、中山道沿いの商店に灯籠の設置等を進め、旧街道の雰囲気造りを推進している。平成11年には「太田宿草鞋の会」が結成されまちづくりの気運は盛り上がっている。 課題 ・日本ライン観光で栄えた観光都市を取り戻すためには、地域住民と行政の共働が必要であり、課題として次の3点が上げられる。 - 拠点施設の整備。 - 散在する観光資源を結び動線を確保する。 - NPO等運営組織の育成と強化。 ・中心市街地の既存商店街の活性化のためには、各店舗の経営努力にあわせて、次のインフラの整備が不可欠である。 - 駐車場の整備。 - 市民来訪者の快適な市街地滞在・回遊を実現するとともに、新たな交流を育む機能と施設の整備。 - 安全で快適な歩行エリアの整備。 将来ビジョン(中長期) ・美濃加茂市第4次総合計画では、中山道については歴史的まちなみや中山道パークなどの整備に努めるとともに、散策ルートの整備を図るべきとされている。また、市内外の人々が気軽に出かけ、集まることのできる名所旧跡などへの誘客整備を推進するとともに、民間の観光・レジャー施設への誘客を促進し、観光産業の振興を図ることとされている。既存の商店街については、中心市街地活性化事業などにより、地域に密着した商店街の形成など、個性的で魅力ある商業空間の整備を促進することとされている。 美濃加茂市第4次総合計画 中心市街地活性化プロジェクト 中山道パーク整備事業 中山道まちなみ整備事業 公共サインプロジェクト ・当市総合計画のなかで市民参加については、市民のまちづくりへの関心を高め市民が主体的にまちづくりに参加するために、ボランティア活動の支援と非営利団体(NPO)の充実・発展に努めるとともに、公共施設の整備や新しい事業の推進にあたっては、計画段階からの積極的な市民参加により、市民の意志を尊重した行政の推進に努めることになっている。 美濃加茂市第4次総合計画 NPOプロジェクト ボランティアセンター事業 パートナシッププロジェクト 公聴会 子どものまちプロジェクト 子育て支援センター 快適道路プロジェクト バリアフリー化事業

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
1. 中山道太田宿来観光客数	人／年	中山道太田宿への来訪者数(イベント含)	拠点施設の整備と修景事業により、観光客の増加が見込まれる。	129,000	平成15年度	220,000	平成21年度
2. 修景工事施工件数	件	修景補助金交付総件数	まちの総合的な整備計画により、地域住民の理解と協力が期待できる。	5	～平成15年度	15	～平成21年度
3. 散策道利用者数	人／年	観光、ウォーキング、ジョギング等での利用者数(イベント除)	当地区の商店は駐車場の不足により沈滞しているが、地域住民や観光客等の歩行者が増えればまちは活性化し、商店街にも活気が取り戻される。	55,000	平成16年度	110,000	平成21年度
4. ボランティア登録者数	人	市(ボランティアセンター)に登録された人数	ボランティア活動の拠点整備とまちづくり活動推進事業により市民の参加を促進し、まちの活性化を図る。	806	平成16年度	2,000	平成21年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
整備方針1(歴史的遺産を活用したまちの活性化) ・当地区には歴史や文化が蓄積されており、脇本陣をはじめとする歴史的遺産は、地域だけの財産としてではなく、広く全国に発信する価値のあるものである。宿場町としての歴史を有する美濃加茂市のシンボリック存在として、また当地域の再生の原動力と地域振興の拠点として、中山道会館の建設、岡本一平住居の移築等の施設整備事業と、カラー舗装や施設案内看板等中山道太田宿の環境整備事業を行うとともに、補助金の交付によりまちなみの修景を推進する。	中山道パーク整備事業(基幹事業)、中山道まちなみ整備事業(提案事業)、中山道散策道整備事業(基幹事業)
整備方針2(観光客の増加促進) ・平成15年4月に閉園した日本昭和村は、年間140万人が訪れるテーマパークとして活気に満ちている。この観光客に、当地域の魅力ある観光資源を提供することにより、地域住民との交流を通じた活力あるまちづくりが期待できる。日本ライン下りと中山道太田地区を散策道と渡し船で結ぶことにより、複合的な観光施設としての魅力を高める。また、観光客等のために市街地内の幹線道路に導入看板の整備を図る。	中山道パーク整備事業(基幹事業)、神明ポケットパーク(基幹事業)、中山道まちなみ整備事業(基幹事業)、中山道散策道整備事業(基幹事業)、市民交流施設整備事業(基幹事業)、市街地サイン整備事業(基幹事業)、太田の渡し再現事業(関連事業)
整備方針3(交流の促進) ・各種イベントを開催し、観光客と市民交流の促進を図るため、市民交流施設内にはコンベンションホール等の施設を整備する。中心市街地域の老人や子どもが集える施設の太田第1保育園及び古井第二保育園の耐震補強工事やコミュニティ施設と買い物客のための休憩所やショートタイム託児所、地域住民の健康増進のための保健施設、環境保護のためのリサイクルステーション等を設置及び整備し、人々の活動を活発化させ中心市街地の既存商店街の活性化を図る。また、高齢化社会の到来や障害者の社会参加の機会拡大に対応するために歩道のバリアフリー化を	蜂屋太田線バリアフリー歩道整備事業(基幹事業)、エコハウス整備事業(提案事業)、太田第1保育園及び古井第二保育園耐震補強工事(基幹事業)、(仮)かわまち広場整備事業
整備方針4(安心安全の施設整備) ・地域住民及び観光客等が集い交流する中山道パーク・神明ポケットパークを整備し、地域防災計画の指定避難所あるいは一時待避所としてに位置付け、地域住民や観光客の災害時の安全を確保する。また、中心市街地域の老人や子どもが集える施設の太田第1保育園及び古井第二保育園の耐震補強工事を行うことにより、地域防災計画の第2次避難所としての防災機能を強化し、地域住民や所在時園児の災害時の安全を確保する。	中山道パーク整備事業(基幹事業)、神明ポケットパーク(基幹事業)、太田第1保育園及び古井第二保育園耐震補強工事(基幹事業)、安全歩行エリア整備事業「地方道路臨時交付金」(関連事業)、バリアフリー事業「地域活力基盤創造交付金」(関連事業)
その他 ・継続的なまちづくり 事業実施にあたっては、計画段階から市民の参加によるワークショップを行い市民の積極的な参加を促す。施設整備後の運営にあたっては、NPO法人等住民主体の管理方法を検討しており、その組織づくりを推進している。当地域の活性化のために、市民による実行委員会が、ウォークみのかも、おん祭みのかも等のイベントを開催している。 ・ボランティアセンターの活動推進 市民交流施設には、観光情報サロン等の観光サポート事業施設や交流のためのコンベンションホールと併設して、市民グループの活動拠点として各種団体の事務所等を整備する。市民活動に役立つ書籍やパソコンを閲覧できる「情報コーナー」、市民活動に関する相談を行う「相談コーナー」、交流や作業スペースとして利用できる「交流コーナー」を設ける。また、資源回収ステーション、リサイクルショップ、市民活動支援室、エコッキング室、自然展示コーナー、生ごみ堆肥化及び廃食油BDF燃料化施設、学習室等を整備し市民参画を推進する。 ・ワークショップの活動支援と市民への情報提供 まちづくりに対するアンケート調査等を実施し、市民主体のワークショップ活動を支援する。交付期間中の事業計画、事業の推進状況及び調査結果についてはホームページ等で情報公開し、市民の協力と参加を促す。 ・観光交流空間づくりモデル事業の推進 中山道太田宿を含む日本ライン広域地区(犬山市、各務原市、可児市、坂祝町、美濃加茂市)は平成15年に全国8地域のひとつに選定され、施設の整備計画とソフト事業の推進に努めてきた。平成17年10月には、中山道全国宿場町会議の開催が予定されている。	

交付対象事業費	878	交付限度額	367	国費率	0.418
---------	-----	-------	-----	-----	-------

基幹事業

5...A

2...8

〔參考〕関連事業

[illegible]

市町村決定計画及び市町村施行国道等事業に関する事項

※該当がない場合は本シートをつける必要はない

市町村決定計画

都市施設及び市街地 開発事業の種類	決定/変更	名称	その他必要な事項	変更の概要	都市再生整備計画の 公告(予定)年月日	都市計画の決定又は 変更の期限

市町村施行国道等事業

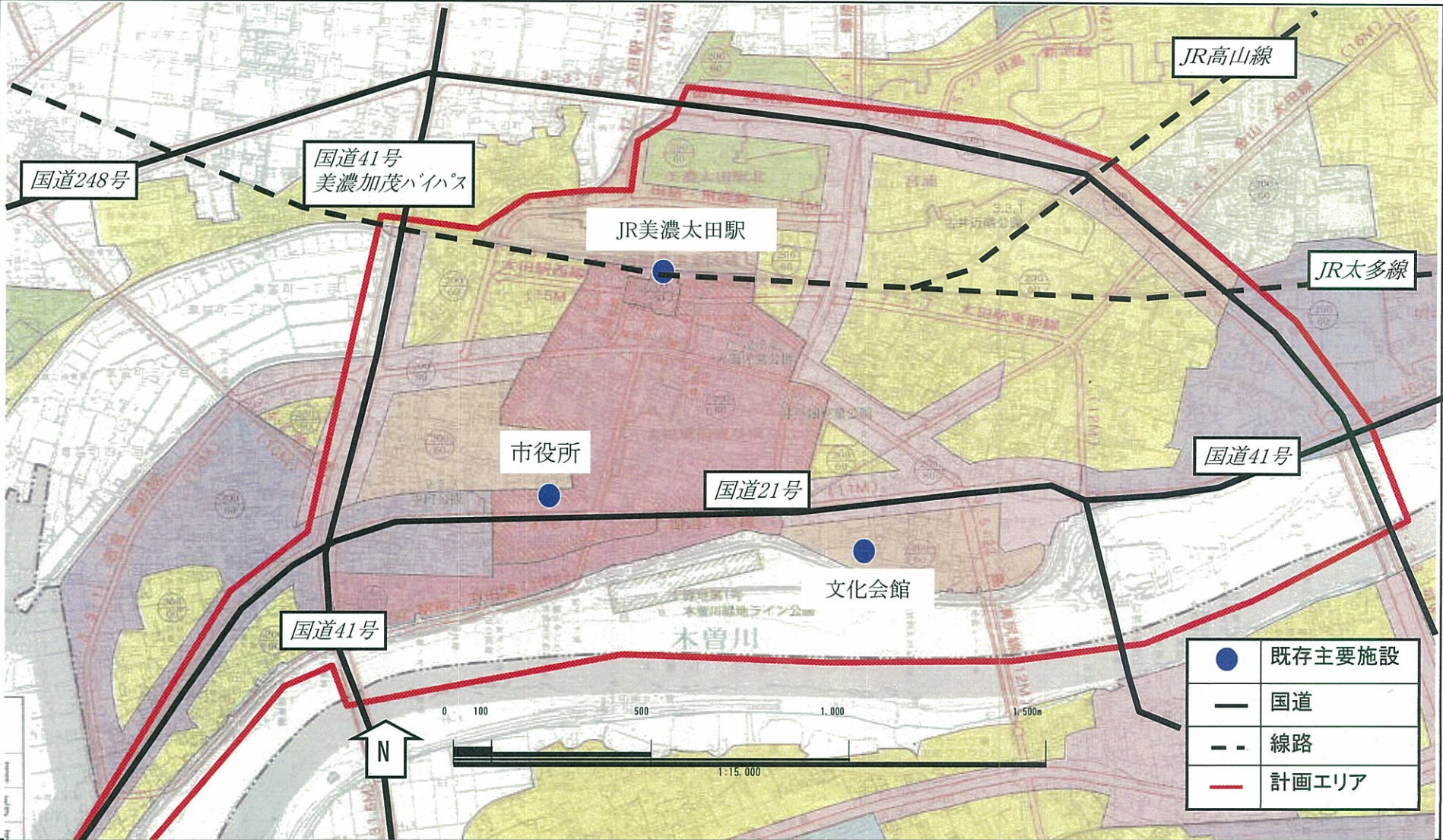
道路の種類	路線名	新設又は改築の内容
都道府県道	県道蜂屋太田線	片側歩道から両側歩道にするため、歩道(片側W=4.25)を新設整備 施工区間 L=35m W=6.0(18.0)m

【記入要領】

- ・本シートは、都市再生特別措置法の規定に基づき、都道府県が決定する都市計画や国道・都道府県道に関する事業を都道府県等の同意を得て市町村が決定・実施を行う場合に記載。それ以外の場合は、本シートをつける必要はない。
- ・必要な場合は適宜行を追加すること。
- ・「都市施設及び市街地開発事業の種類」欄及び「名称」欄は、都市計画に定められている(定める予定の)内容を記載すること。
- ・「決定/変更」欄は、市町村が新たに都市計画決定しようとする場合は“決定”と、都道府県が既に定めた都市計画を市町村が変更しようとする場合は“変更”と記入すること。
- ・「その他必要な事項」欄は、道路の場合は種別、延長、幅員、車線の数について、公園の場合は種別、面積について、緑地、広場の場合は面積について、河川の場合は延長、幅員について、市街地開発事業の場合は施行区域の面積について、都市計画に定められている(定める予定の)内容を記載すること。
- ・「変更の概要」欄は、「決定/変更」欄に“変更”と記入したものについて、差し支えない範囲において変更の概要を記入すること。
- ・「都市再生整備計画の公告(予定)日」欄及び「都市計画の決定又は変更の期限」欄には、年月日を記入すること。なお、「都市再生整備計画の公告(予定)日」欄に公告予定日を記入する場合は()書きとすること。
- ・「道路の種類」欄は、“一般国道”か“都道府県道”のいずれかを記入すること。
- ・路線名は、例えば“国道〇〇号線”、“〇.〇.〇□□□線”などと記入すること。
- ・「新築又は改築の内容」欄は、“電線類の地中化”、“歩道の拡幅に関する改築”等、新設又は改築の具体的内容を記入すること。

都市再生整備計画の区域

中山道太田宿地区(岐阜県美濃加茂市)	面積	317 ha	区域	深田町1丁目、2丁目、太田本町1～5丁目、島町2丁目の全部 太田町、古井町下古井、御門町1丁目、2丁目の一部
--------------------	----	--------	----	---



中山道太田宿地区(岐阜県美濃加茂市) 整備方針概要図

目標	中山道太田宿を中心としたエリアの一体整備を行うことにより歴史と文化にふれあうまちづくりを推進し、地域住民の交流と観光及び商店街の活性化をめざす。	代表的な指標	中山道太田宿来観光客数 (人/年)	129,000 (15年度)	→	220,000 (21年度)
			修景工事施工件数 (件)	5 (~15年度)	→	15 (~21年度)
			散策道利用者数 (人/年)	55,000 (16年度)	→	110,000 (21年度)

